

都市再生整備計画(第7回変更)

加賀温泉駅周辺地区

石川県 加賀市

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	石川県	市町村名	加賀市	地区名	加賀市加賀温泉駅周辺地区	面積	26 ha
計画期間	令和 1 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 1 年度 ~ 令和 7 年度				

<p>目標</p> <p>【大目標】北陸新幹線加賀温泉駅開業に向け加賀温泉駅周辺の賑わい創出 目標1:加賀温泉駅前広場の交通結節機能強化 目標2:既存施設との連携を強化した駅前広場の魅力づくり 目標3:加賀市の玄関口として相応しい賑わい空間づくり</p>
<p>背景</p> <p>令和4年10月 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 本市では、北陸新幹線金沢・敦賀間の整備や国道8号の4車線化拡幅事業など交通インフラ整備が進められている。一方で人口減少や少子高齢化が進行する中、都市インフラの老朽化が大きな課題となりつつある。本市は、数度の市町村合併により、市街地が分散した多極分散型の都市構造となっている。各市街地において人口減少が進む中、作見地域に限っては、加賀市医療センターの開院や新幹線駅の整備が進むなど、人が集まる地域として市街化が進んでおり、本市の中心に位置するこの地域を拠点とし、各市街地をつなぐ利便性の高い公共交通の充実を図るものとする。また、その他の市街地では、既存の生活利便施設や公共施設の維持と新たな施設の誘導を図り、生活利便性が高く、住みやすいまちの形成を進め、居住を誘導するものとする。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>加賀温泉駅は、S18に「作見信号所」として開設され、翌年に「作見駅」となり、大聖寺駅と動橋駅に停車していた特急を集約して停車させるため、S45に整備を行い現在の駅名「加賀温泉駅」となった。S47～S49の駅西部における土地区画整理事業以降、H7～H12に駅前広場が整備され大規模小売店舗の立地など県道沿いへの店舗立地が進捗している。駅南東部では、駅前広場に隣接し大規模小売店舗(アピオシティ)が進出したことに伴い、地区計画による開発者主導の住宅地を主体とした整備を進めている。H28には、大聖寺地区にあった加賀市民病院が駅南部に「加賀市医療センター」として移転しており、また、石川県施行により大聖寺地区と加賀温泉駅を結ぶ大聖寺道路が事業化され、加賀温泉駅周辺に都市機能の集約化がすすめられている。</p> <p>加賀温泉駅前広場については、平成7年に北陸新幹線の整備等による将来鉄道利用者の増加に伴う交通需要に対応するため駅前広場を8,500㎡から17,000㎡に都市計画決定の変更を行っており、併せて、駅前広場に接道する県道(加賀温泉停車場線)について、駅前広場と一体的な歩行空間を創出するため一部幅員を25mから40mとする都市計画決定の変更を行っている。在来線駅舎については、新幹線駅舎の支障となることから在来線ホーム北側の移転を計画している。加賀温泉駅におけるJR乗降客数については、H17～H27までは微減傾向にあったが、H27.3北陸新幹線金沢開業により約237千人(117.0%)の増加に転じている。また台湾・シンガポール等との積極的な海外交流によるインバウンド観光の推進により、H28年度の外国人観光客数は約61千人となり、毎年着実に増加している。</p> <p>H34末には北陸新幹線金沢・敦賀間の開業が控えており、今後ますます加賀温泉駅を利用する人数が増えることが予想されるが、現状では、観光バスや自家用車の駐車場が不足しており、朝夕の通勤・通学時には交通渋滞が生じている。また、駅前広場中心の環境空間は十分に活用されていない状況であり、駅前広場を拡張した交通結節機能の強化と賑わい空間の創出、在来線新駅舎周辺の広場整備が求められている。</p> <p>また、加賀市立地適正化計画において、本地区は都市機能誘導区域に含まれており、その目標達成にも資するものである。</p>
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光周遊バス(CANBUS)停留所が広場外に設置されており来街者に分かりにくく、また、観光バス駐車場がなく観光機能が不十分である。 ○キスアンドライド車両の滞留により、朝夕に混雑が生じており、また、新幹線開業時においてパークアンドライド駐車場の駐車台数が不足する。 ○広場に隣接する市美術館及び大規模小売店舗との連携が不十分である。 ○駅前広場中心の環境空間が十分に活用されていない。 ○在来線駅舎の北口移転により駅北広場の整備が必要である。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>本地区は、「加賀温泉郷の玄関口にふさわしい都市機能が集積したまち」を図るべき地区として、駅前の広場の機能充実をはじめ、都市機能の集積を促進し、加賀温泉郷の玄関口として利便性に優れた賑わいと活力のあるまちづくりを目指している。</p>

<p>都市機能配置の考え方</p> <p>多極分散型の都市構造である本市において、全ての居住や都市機能を一つの地域に集約することは、他の地域の活力や利便性の低下を招くおそれがあり、それぞれの地域で培われてきた歴史や文化、コミュニティの衰退が懸念される。このため、本市における都市の在り方としては、一極集中ではなく、七つの既存市街地の緩やかな誘導を図り、道路網や公共交通で連携する。一定の市街地が形成されているが人口減少が顕著な大聖寺・山代・片山津・山中地域、及び、市の中心として発展を図る作見地域において、「都市機能誘導区域」及び「居住誘導区域」を設定し、動橋・橋立地域においては、良好な居住環境を維持する「居住環境維持区域」を設定する。</p>
<p>都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方</p> <p>都市計画マスタープランでは、作見地域の将来都市像を「都市機能が集積した人が集い行き交う加賀温泉郷の玄関口」と定め、本市の拠点として相応しい都市景観の形成のほか、商業施設や文化施設、医療施設等多様な都市機能を集積し、賑わいの核となる都市空間の形成・創出を推進することとしており、近年は、駅前にも市立病院が立地し、令和4年度末には、北陸新幹線駅が整備されることから、地域型の商業施設や金融機関に加え、広域型の商業施設などを積極的に誘導していくことが今後の方向性として考えられる。</p>
<p>都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等</p>

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
周遊観光バス利用人数	人／年	CANBUSの年間利用人数	加賀温泉駅前広場の交通節節機能の強化(目標1)として観光バスの停留所を駅前に整備することにより、CANBUSの利用人数の増加を目指す。	98,731人	H29	109,000人	R7
市美術館入館者数	人／年	加賀市美術館の年間入館者数	既存施設との連携を強化した駅前広場の魅力づくり(目標2)により、加賀市美術館の入館者数の増加を目指す。	30,177人	H29	34,000人	R7
駅前広場イベント参加人数	人／年	加賀温泉駅前広場の年間イベント参加人数	加賀市の玄関口として相応しい賑わい空間づくり(目標3)により、加賀温泉駅前広場で開催するイベントの年間参加人数の増加を目指す。	440人	H27	880人	R8

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1：加賀温泉駅前広場交通結節機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光周遊バス停留所及び観光バス駐車場を整備する。 ・朝夕の通勤・通学による混雑解消のためキスアンドライド駐車場を再整備する。また、新幹線開業に向け不足が予想されるパークアンドライド駐車場を整備する。 ・在来線駅舎がホーム北側に移設するため、駅北広場等の整備をする。 	<p>駅北・駅前広場整備（基幹事業：地域生活基盤施設） 駅北・駅前駐車場整備（基幹事業：地域生活基盤施設） 駅北・高架下自転車駐車場整備（基幹事業：地域生活基盤施設）</p>
<p>都市再生整備計画（第5回変更）</p>	<p>全天候型広場整備（基幹事業：地域生活基盤施設） 歩行支援施設整備（基幹事業：高質空間形成施設） 県道街路整備（関連事業：道路） 緑地整備（基幹事業：地域生活基盤施設）</p>
<p>整備方針3：北陸新幹線開業に併せ都市施設を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線駅舎高架下に観光交流センター等を整備する。 ・情報板整備及び地下自由通路内の改修をする。 	<p>観光交流センター整備（基幹事業：高次都市施設） 地下自由通路改修（基幹事業：高質空間形成施設） 情報板整備（基幹事業：地域生活基盤施設） 自由通路施設整備（基幹事業：地域生活基盤施設）</p>
<p>その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 上位計画：加賀市都市計画マスタープラン（平成31年4月改定） <ul style="list-style-type: none"> 【将来都市像】ひと・もの・地域がつながる 住んでいたい 訪れてみたい 輝きが集約されたまち 【作見地域の将来都市像】「都市機能が集積した人が集い行き交う加賀温泉郷の玄関口」 <ul style="list-style-type: none"> 加賀温泉郷の玄関口となる加賀温泉駅周辺は、北陸新幹線駅が整備される重要な交通結節点であり、施設の整備拡充し公共交通の拠点化を図ります。 また、本市の顔としての都市景観形成のほか、商業施設や文化施設、医療施設等、多様な都市機能を集積し、賑わいの核となる都市空間の形成・創出を推進します。 ● 加賀市立地適正化計画について（平成31年4月） <ul style="list-style-type: none"> 加賀市の「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を実現するために、「都市機能誘導区域」「居住誘導区域」「誘導施設」「具体的施策」等を定めています。 作見地域は、近年市立病院が統合移転し、今後、北陸新幹線駅が整備されることから、都市機能を積極的に誘導していく方向性としています。 なお、本都市再生整備計画の事業区域は立地適正化計画の作見地域の都市機能誘導区域に含まれています。 ● 加賀温泉駅施設整備検討委員会について <ul style="list-style-type: none"> ・加賀温泉駅前広場の交通結節機能の強化と加賀の玄関口としてふさわしい空間及び賑わいの創出を目指し、加賀温泉駅の交通施設整備や観光交流施設などについて検討する。 	

加賀温泉周辺地区(石川県加賀市)	面積 26 ha	区域 加賀市作見町と小菅波町
------------------	-------------	-------------------

